

2年度 学校だより 11月号 11月30日発行

横浜市中区山元町3-152
電話 641-4857



やまもと

横浜市立山元小学校
校長 石田 薫

自分を大切にできる子 共に生きる子 山元の子



人間万事塞翁が馬

校長 石田 薫

初冬の候。日頃より本校の教育活動にご理解・ご協力いただき感謝しております。多くのご理解・ご協力をいただいている中、11月27日の会計処理を発端とする不祥事が起きましたこと、重く受け止めております。心よりお詫び申し上げます。会計ミスに限らず今後不祥事を起こさないよう、改めて職員一同気を引き締めていく所存です。

『自分を大切にできる子 共に生きる子 山元の子』という地域に根差した学校目標を実現するため、信頼回復に努めてまいります。申し訳ありませんでした。

27日に文書を配布させていただきましたが、保護者の皆様には、今後2月と3月に予定している懇談会の冒頭で改めてご説明させていただきます。本来でしたら、すぐにご説明の機会をもつ必要があると承知しておりますが、感染症が拡大している中、後日の説明会と判断いたしました。ご理解のほど、宜しく願い申し上げます。

私の座右の銘の一つは、『人間万事塞翁が馬』です。ご存じの方やこの格言を座右に銘にしていらっしゃる方も多いと思います。

昔、中国の北の砦に住んでいる老人の馬が逃げてしまい、人々が気の毒がると老人は「そのうち福が来る」と言い、やがて逃げた馬は駿馬を連れて戻ってきました。人々が祝うと老人は、「これは、不幸の元となるだろう。」と言いました。するとその馬に乗った老人の息子は、落馬して骨折してしまいます。人々が見舞うと老人は、「これは幸せの基になるだろう。」と言いました。一年後他国の軍が攻めてきて、

大勢の若者が犠牲となりましたが、息子は骨折していたので戦争に行かずに済み、命を落とすことはありませんでした。

という話で、人生における幸不幸は予測しがたく、幸せが不幸に不幸が幸せにいつ転じるかはわからないから安易に一喜一憂すべきではないという例えです。私は、それに加えて、うまくいっている時こそ気を引き締める必要があり、逆に失敗したり不運に見舞われたりした時は、前向きにリカバリーしていくことにより更に成長できると信じています。

今回の不祥事は、本校にとってダメージの大きなものですが、これを教訓として、プラスの方向にもっていかれるよう、災いを福に転じさせるよう、職員で協力して更に透明性の高い、温かい学校を目指してまいります。

ご心配をおかけし、誠に申し訳ありませんでした。